



令和 5 年 3 月 1 日 現在	2,009 世帯
総世帯数	4,775 人
総人口	2,358 人
男	2,417 人
女	

### 腹話術とコマの 演技に大興奮!

3月5日(日)に春のわくわく子ども広場が神林子ども会育成会、神林公民館共催で燕屋さんによる腹話術や人形芝居、こまのたけちゃんによるこまやけん玉のパフォーマンスが開催されました。当日は約130人の親子が訪れ、子供達の笑い声や拍手が体育館に響き大盛況でした。

人形芝居燕屋さんは神林在住の方で、信州松本を拠点に国内・海外とひとり人形芝居の上演を幅広く行っている。か、演出・ワークシヨップなども行っています。腹話術日本古来の芸能を現代に復活した肩掛け人形芝居、和楽器生演奏とのコラボレーションなど幅広い演目を上演しています。大学在学中に人形劇を始め、ブーク人形劇アカデミーで本格的に人形劇を学ばれ、長期入院の子供達にプロのパフォーマンスをプレゼントす



る活動も行っています。当日参加出来なかった方は、人形芝居燕屋ホームページからいろいろな動画が視聴できます。

こまのたけちゃんは、全日本こま技選手権4連覇達成の達人です。こまやけん玉のパフォーマンスを、子供達が真剣に見ている姿がとても印象的でした。刀の上で回るこまや空高く上がるこまの技の凄さに、子供達の驚いた声が多く聞かれました。演技後、子供達にこまやけん玉の技の講習会が行われ、子供達は夢中でこまとけん玉の技を習得していました。

### 「真田丸」の 演奏に感動

2月16日、下神の長久寺にて、福祉ひろばと公民館共催でパイナツプルカフエを開き、バイオリン演奏を、45人が楽しんだ。

スズキメソッドのバイオリン奏者は白井紳二さん、電子ピアノ伴奏は松下佳奈さん。共に県陵卒業生で息がぴったりとのこと。

白井さんは三島治療整復院での治療が縁で今回3度目の演奏になる。

演奏は「春の海」「ユモレスク」などポピュラーもの、次



いで童謡の「冬景色」「春よ来い」から「上を向いて歩こう」それに伴奏者を悩ます程迫力たつぷりの「真田丸」その後しつとりとバイオリンの名曲「タイスの瞑想曲」など14曲を熱演され、アンコールに有名な「G線上のアリア」を弾いて大拍手だった。

バイオリンを演奏した白井さんは「温かい雰囲気の中で気持ちよく、演奏出来て大変有難く感謝です」と話された。司会進行した三島幸子さんは「春の海を弾いて貰えてうれしかった。皆さんに喜んで頂け有難かったです」と話した。

## 鎖川

松本山雅の監督に霜田正浩さんが新たに就任した。ブラジルや日本リーグチームに所属した選手で、引退後は日本サッカー協会にて技術委員

長の経験や、数多くの国内外チームでコーチや監督を務められていたこともあり、期待できる監督だと思っている。あとはフロント次第ではないか。

横山選手が鳥栖に引き抜かれたのは痛い。しかし、J1で活躍していたFW・渡邊千真選手やブラジルから両足使いを自慢するルーカスヒアン選手が新加入、DF・ボランチもこなす喜山康平選手や鈴木国友選手も戻って来て心強い。また、移籍の藤谷選手や滝選手は即戦力である。

昨年出場経験のある濱名選手と田中選手や大卒で入団した3名の選手も昨年の大卒入団選手同様に、ポジション争いの中、先発出場できるような一層頑張ってほしい。

今シーズンもJ2リーグへ昇格を目指す戦いが始まっている。スタジアム全体で声出し応援もできるように、コロナ以前と同じくらいのサポートが戻り、優勝で雄叫びを上げる日が来ると信じている。

# チンプム 優勝目指し



下神町会の主力 80 歳!



全員で準備体操



優勝町会の表彰の様子



寺家町会の華麗なトス

2月26日(日) 体育館にて、3年ぶりに町会対抗の神林地区球技大会が開催されました。各種目の入賞した町会は以下の通りです。

### ◆ ラージボール卓球

- 優勝……下神
- 準優勝……町神
- 3位……南荒井

### ◆ ソフトバレーボール

- 優勝……寺家
- 準優勝……町神
- 3位……川東

活躍された出場選手、ならびに運営関係者の皆さん、お疲れ様でした。

## キーワードはなに?

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で5名に500円分の図書カードをプレゼント! 締切は4月28日(金)、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております!

【前回の答え】 ①さきとし      【今回のキーワード】 ○○○○○○

## 神林にこの人あり! 15 渡辺政雄さん(下神)

「人に魅せようと思うとうまく描けない。だけど絵は人に見てもらうものだから、そこが難しい。自分が描きたいものを描くと良い。まさに野獸派だ。」と言う。

下神在住の渡辺政雄さんは油絵や水彩画で多くの賞を獲得され、個展も開催されている画家で、先日も市内の百貨店では個展が開催され、訪れる人に感動を与えている。渡辺さんの絵画は古い建物の風景画で日常にあるよく見た風景がノスタルジックに描かれている。日本の野獸派と言われる佐伯祐三の描く古きパリの街並みの絵画に惹かれ建物を描くようになった。「古い建物の朽ちている姿は魅力と感動がある。」と言う。筆を使用せず、ペインティングナイフというコテのような道具を使う。これだけで描く画家は少ないぞうだ。また油絵は大量の絵の具を使用するため、絵の具も特大のものを使用する。

油絵の制作は構想を練るところから始める。これが一番時間が掛かるそうで、現地を確認する、写真を撮ってみる、



何回か訪問する、など繰り返す。頭の中でイメージを膨らませて、思い通りの構想がひらめいたときに製作を始める。これだけで何年もかかることもある。何回も絵の具を塗りこみ、乾燥させて完成するまで半年以上かかるという。中学時代から油絵を描き始め、六十二歳で退職するまで趣味として絵画を続けていた。その後本格的に画家の活動を始め、現在に至る。現在は建物の絵画が主であるが、以前は山の風景も好んで描いていて、北アルプスなどの三千メートル級の山に登山に行つて絵を描いていた。普段からスケッチブックを持ち歩いていて、ちよつとした時間があれば日常の風景を描いている。「いつも描いていないと腕が鈍るから。」と言い、描くことがライフワークである。